氏　　名	矢本　琢真
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第７０２号
学位授与年月日	令和８年９月２８日
審査委員	主査　教授　神田　武志
	副査　教授　岸　博子
	副査　准教授　吉野　純

論文審査の結果の要旨

原発性副甲状腺機能亢進症（pHPT）症例の重要な合併症に腎機能障害がある。本研究では、pHPT症例の腎機能障害に関連する因子を後ろ向き観察研究により検討した。申請者は89例を対象とした横断解析および47例を対象とした縦断解析を実施し、診断時の腎機能低下ならびに経時的な腎機能悪化に関連する因子を評価した。横断解析において、eGFR 60 mL/min/1.73m²未満の症例において尿細管リン再吸収率（%TRP）は有意に低値を示し、多変量解析においても%TRP低値が腎機能低下と独立して関連した。さらに、1年以上経過観察された症例を対象とした縦断解析において、血清クロール値高値が年間eGFR低下速度の増大と独立して関連することを明らかにした。本研究は、pHPTにおける腎障害の病態に着目し、従来十分に検討されていなかったリン代謝指標および血清クロール値の臨床的意義を示した点に新規性を有する。特に、%TRPが診断時の腎機能障害の指標となる可能性、血清クロール値が将来的な腎機能低下の予測因子となる可能性を示したことは、pHPT患者のリスク評価および診療戦略の発展に寄与する重要な知見と考えられた。